

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2017年度前期 開講講座
5月13日(土) 午後1時～
キューバ社会主義との連帯
——第8回キューバ連帯アジア太平洋地域会議
(フィリピン・マニラ)の報告と映像
同時上映『ドキュメンタリー グアタナモ 米海軍基地』(30分)
報告＝派遣代表团
助言＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム)

4月25日(火) 18時開場／18時30分開会
東京・文京区民センター 2A会議室
安倍内閣に退陣を迫ろう！
4・25緊急労働者集会
■講演：森友問題からみる日本会議の正体
木村 真 (大阪府豊中市議会議員)
(森友問題で大阪地裁に提訴・問題の提起者)
■沖縄・反原発・共謀罪など各分野からの報告
◎HOWSも集会実行委員会に参加しています。

1、憲法施行から70年後の現実

アメリカとともに戦う国づくりを強力に推し進める安倍政権を、国民の高い支持率が下支えしている。自衛隊強化と運動への弾圧と分断支配の現状を直視し、平和憲法を掲げた戦後民主主義とは何だったのかを改めて問う。

- ①**5月31日(水) 共謀罪をはじめ、最近の政治状況とメディア**
講師＝山口正紀 (ジャーナリスト/人権と報道・連絡会世話人)
- ②**6月3日(土) 戦争と基地を拒否する沖縄の声を聞け**
——琉球列島・宮古島で進行する「陸自配備計画」の実態
講師＝清水早子 (宮古平和運動連絡協議会・共同代表/止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会・事務局長)
- ③**7月8日(土) 運動を分断する憎悪表現**
——沖縄反基地運動へのヘイトスピーチと差別
講師＝前田 朗 (東京造形大学教授)

2、組合つぶしに抗し、闘う労働運動から学ぶ

1987年の国鉄分割民営化、それは独占資本と権力が一体となった国家的不当労働行為、国労つぶしだった。総評は解体され、戦間的な労働組合は少数派に切り縮められた。いまや資本は、投資先に困るほど儲けをためこみ、それでも労働者の健康はおろか生命すら顧みず、搾取を強めている。際限のない資本の自己増殖運動に歯止めをかけることができるのは、労働者の階級的な闘い以外にありえない。さまざまな闘争から学び、連帯して、闘う労働運動の潮流をつくりだそう。

- ①**5月20日(土) 韓国サンケン労組日本遠征団は訴える**
——日系企業の横暴は許さない！
報告＝韓国サンケン労組
- ②**6月28日(水) やりがい搾取と働き過ぎの国、労働者はどう闘うか**
——電通過労自死事件の取材から
講師＝北 健一 (ジャーナリスト)
- ③**7月12日(水) フジビ闘争と「スラップ裁判」**
——組合つぶしの偽装倒産は許さない！
講師＝中原純子 (全労協全国一般東京労組フジビグループ分会)
- ④**8月23日(水) 国鉄分割民営化から30年**
——いまJRで何が起きているか？
講師＝小林春彦 (元国労千葉地本委員長)

3、日本人民の歴史・社会認識を確立するために

日本人民の歴史・社会認識を確立するには、みずから歩んできた歴史を、階級的・国際的視野で見つめ直すことが不可欠だ。今回は、日本人と在日朝鮮人による協働の取り組みとして、この課題を追求する。HOWSは、日本人と在日朝鮮人とか対話し、真実の思考を追究する場としてありたい。多くのおみなさんの積極的参加と発言を期待する。

- ①**8月5日(土) 在日朝鮮人からみた「経済制裁」の10年**
——それが在日朝鮮人社会にもたらしているもの
講師＝李 春 熙 (弁護士)
- ②**8月26日(土) 朝鮮から見た日本の戦争観・植民地認識の問題**
——朝鮮の「150年の非平和」と日本
講師＝慎 蒼 宇 (法政大学教員)
- ③**9月9日(土) 関東大震災と朝鮮人虐殺**
——わたしやあなたの住む町で起きたこと
講師＝西崎雅夫 (「関東大震災朝鮮人虐殺の国」家責任を問う会) 運営委員)
- ④**9月13日(水) 近代天皇制とイエ**
——中野重治「村の家」の孫蔵像を手がかりに
講師＝渥美 博 (編集者)

4、労働者階級の未来は社会主義にある！

世界の人民はいま「未来と目標」を喪失した危機的な状況におかれている。わが国ではとくにその状況がはなはだしい。ロシア十月社会主義革命の勝利から100周年の記念すべき今年、社会主義革命が目指したものをそして実現したものを再確認する。

- ①**5月13日(土) キューバ社会主義との連帯**
——第8回キューバ連帯アジア太平洋地域会議(フィリピン・マニラ)の報告と映像
同時上映『ドキュメンタリー グアタナモ 米海軍基地』(30分)
報告＝派遣代表团 助言＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム)
- ②**7月22日(土) 社会主義の教育システム**
——キューバ・朝鮮の教育の実像
講師＝佐野通夫 (こども教育宝仙大学教授)
- ③**9月20日(水) 十月社会主義革命はなにを目指したか**
——その教訓を現代にどう活かすか
講師＝鎌倉孝夫 (埼玉大学名誉教授)
聞き手＝山下勇男 (社会主義理論研究)

5、現代世界をどう把握すべきか

われわれは商業マスメディアが流す「国際報道」の奔流のなかで生活している。それらの報道はいずれも帝国主義者たちの視点を入びとに押しつけようとするものである。労働者階級の視点から現代世界を具体的に見ていく。

- ①**7月29日(土) 多国籍企業**
——利益獲得のために狂奔する資本家たちの思想的背景
講師＝金野正晴 (自営業) (夏季セミナー)
- ②**7月30日(日) 国家の破壊はいかに行なわれるか**
——シリア、イラクに対するアメリカ帝国主義の介入と増大する難民
講師＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム) (夏季セミナー)
- ③**8月19日(土) こんにちの世界政治における中国の位置**
——対決ではなく、友好こそが歴史発展の道
講師＝久保孝雄 (神奈川県日中友好協会名誉顧問 アジアサイエンスパーク協会名誉会長)

6、ロシア革命100周年を記念する文化芸術講座

ふつうの労働者の母親が、息子の闘いを契機に自らも闘いに参加し、やがて労働者階級の母親になり、そしてロシア革命に参加していく…。ゴリキーの小説『母』をもとにしたプレヒト劇『母(おふくろ)』を朗読とうたで構成した舞台を今年11月のロシア革命から100年の記念集会(HOWS後期開講講座)で計画。より理解を深めるため、革命を労働者大衆の事業として描きだす映画『十月』、ゴリキー原作を映画化した『母』、プレヒト作『母(おふくろ)』と同じように日本植民地時代に満州地方にあった朝鮮民族居住地・間島での抗日バルチザン闘争のなかで真の朝鮮のオモニ(母)になっていく姿を描いた映画『血の海』を上映・討論する。

- ①**6月17日(土) プレヒト『母(おふくろ)』歌と朗読による試みに向けて**
問題提起＝井野茂雄 (文化活動家)
- ②**7月30日(日) 映画『十月』(1928年・ソ連 109分 監督：セルゲイ・M・エイゼンシュテイン)**
上映と討論 (夏季セミナー)
解説映像＋阪上みづ子「十月革命について」
- ③**9月2日(土) 映画『母』(1926年・ソ連 87分 監督：フセヴォロド・ポドフキン)**
上映と討論
解説＝立野正裕 (元明治大学教員)
- ④**9月30日(土) 映画『血の海』(1969年・朝鮮 253分 監督：チェ・イクギョ)**上映と討論

7、世界の短編小説を読む

講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
今期は現代アメリカ文学の秀作四編を取り上げる。大衆におもねることを拒否し、現代人の魂の空白と孤独の根源を誠実に見つけ、作家の良心を貫くことによって、人間の品位を浮かび上がらせる。(各回とも午後7時に開始)

- ①**5月24日(水) ボール・オースター作『鍵のかかった部屋』**(白水ブックス)
- ②**6月7日(水) ウィリアム・サロイヤン作『わが名はアラム』**(新潮文庫)
- ③**7月19日(水) ヘミングウェイ作『キリマンジャロの雪』**(新潮文庫)
- ④**9月27日(水) カースン・マッカーズ作『結婚式のメンバー』**(新潮文庫)

8、この人にきく

- ①**5月27日(土) 詩歌と戦争**
——白秋と民衆、総力戦への「道」
講師＝中野敏男 (東京外国語大学名誉教授)
- ②**7月1日(土) 作品を通して考える朝鮮の歴史**
——『朝鮮民族の美100点』スライド上映と討論
講師＝金 哲 央 (国際高麗学会理事、哲学博士)
- ③**7月15日(土) 関谷興仁作品集『悼一集成一』を上梓して**
——加害の歴史はけっして忘却できない
講師＝関谷興仁 (陶板作家、〈益子〉朝露館館長)
- ④**9月16日(土) 女たちの活動とカレンダーと**
——大震災から6年半が経過して
講師＝黒田節子 (原発いらない福島の人たち)

HOWS講座カレンダー 2017年度前期 (5月～9月)

5月13日(土) <開講講座> キューバ社会主義との連帯
——第8回キューバ連帯アジア太平洋地域会議(フィリピン・マニラ)の報告と映像
同時上映『ドキュメンタリー グアタナモ 米海軍基地』(30分)
報告＝派遣代表团 助言＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム)
5月20日(土) 韓国サンケン労組日本遠征団は訴える——日系企業の横暴は許さない！
報告＝韓国サンケン労組
5月24日(水) 世界の短編小説を読む ボール・オースター作『鍵のかかった部屋』
講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
5月27日(土) 詩歌と戦争——白秋と民衆、総力戦への「道」
講師＝中野敏男 (東京外国語大学名誉教授)
5月31日(水) 共謀罪をはじめ、最近の政治状況とメディア
講師＝山口正紀 (ジャーナリスト/人権と報道・連絡会世話人)
6月3日(土) 戦争と基地を拒否する沖縄の声を聞け——琉球列島・宮古島で進行する「陸自配備計画」の実態
講師＝清水早子 (宮古平和運動連絡協議会・共同代表/止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会・事務局長)
6月7日(水) 世界の短編小説を読む ウィリアム・サロイヤン作『わが名はアラム』
講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
6月17日(土) プレヒト『母(おふくろ)』歌と朗読による試みに向けて
問題提起＝井野茂雄 (文化活動家)
6月28日(水) やりがい搾取と働き過ぎの国、労働者はどう闘うか——電通過労自死事件の取材から
講師＝北 健一 (ジャーナリスト)
7月1日(土) 作品を通して考える朝鮮の歴史——『朝鮮民族の美100点』スライド上映と討論
講師＝金 哲 央 (国際高麗学会理事、哲学博士)
7月8日(土) 運動を分断する憎悪表現——沖縄反基地運動へのヘイトスピーチと差別
講師＝前田 朗 (東京造形大学教授)
7月12日(水) フジビ闘争と「スラップ裁判」——組合つぶしの偽装倒産は許さない！
講師＝中原純子 (全労協全国一般東京労組フジビグループ分会)
7月15日(土) 関谷興仁作品集『悼一集成一』を上梓して——加害の歴史はけっして忘却できない
講師＝関谷興仁 (陶板作家、〈益子〉朝露館館長)
7月19日(水) 世界の短編小説を読む ヘミングウェイ作『キリマンジャロの雪』
講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
7月22日(土) 社会主義の教育システム——キューバ・朝鮮の教育の実像
講師＝佐野通夫 (こども教育宝仙大学教授)
7月29日(土) 多国籍企業——利益獲得のために狂奔する資本家たちの思想的背景
講師＝金野正晴 (自営業) (夏季セミナー)
7月30日(日) 国家の破壊はいかに行なわれるか——シリア、イラクに対するアメリカ帝国主義の介入と増大する難民
講師＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム) (夏季セミナー)
7月30日(日) 映画『十月』(1928年・ソ連 109分 監督：セルゲイ・M・エイゼンシュテイン)上映と討論
解説映像＋阪上みづ子「十月革命について」 (夏季セミナー)
8月5日(土) 在日朝鮮人からみた「経済制裁」の10年——それが在日朝鮮人社会にもたらしているもの
講師＝李 春 熙 (弁護士)
8月19日(土) こんにちの世界政治における中国の位置——対決ではなく、友好こそが歴史発展の道
講師＝久保孝雄 (神奈川県日中友好協会名誉顧問/アジアサイエンスパーク協会名誉会長)
8月23日(水) 国鉄分割民営化から30年——いまJRで何が起きているか？
講師＝小林春彦 (元国労千葉地本委員長)
8月26日(土) 朝鮮から見た日本の戦争観・植民地認識の問題——朝鮮の「150年の非平和」と日本
講師＝慎 蒼 宇 (法政大学教員)
9月2日(土) 映画『母』(1926年・ソ連 87分 監督：フセヴォロド・ポドフキン)上映と討論
解説＝立野正裕 (元明治大学教員)
9月9日(土) 関東大震災と朝鮮人虐殺——わたしやあなたの住む町で起きたこと
講師＝西崎雅夫 (「関東大震災朝鮮人虐殺の国」家責任を問う会) 運営委員)
9月13日(水) 近代天皇制とイエ——中野重治「村の家」の孫蔵像を手がかりに
講師＝渥美 博 (編集者)
9月16日(土) 女たちの活動とカレンダーと——大震災から6年半が経過して
講師＝黒田節子 (原発いらない福島の人たち)
9月20日(水) 十月社会主義革命はなにを目指したか——その教訓を現代にどう活かすか
講師＝鎌倉孝夫 (埼玉大学名誉教授) / 聞き手＝山下勇男 (社会主義理論研究)
9月27日(水) 世界の短編小説を読む カースン・マッカーズ作『結婚式のメンバー』
講師＝立野正裕 (元明治大学教員)
9月30日(土) 映画『血の海』(1969年・朝鮮 253分 監督：チェ・イクギョ)上映と討論

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一
2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。2015年度は次のテーマで開催しました。戦後短歌史の概略と我が師藤田武/加部洋祐著『亞天使』——朗読と合評/石川逸子著『戦争と核と詩歌』合評/宮本百合子の戦中・戦後——『婦人と文学』(1947年)を読む

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子
台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。

- これまでの制作・作品には、次のものがあります。
 - 1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
 - 2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して
 - 3) 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
 - 4) 戦争を止めよう！Ⅱ
 - 5) いま、私たちの労働現場からⅡ
 - 6) 私たちはどうい社会をつくりたいのか——憲法改悪は誰のため？
 - 7) 憲法改悪反対！ 忘れな 戦争責任と不戦の誓い
 - 8) 共闘こそ力！——壊憲を許すな
 - 9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
 - 10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために
 - 11) 不安だらけの未来はいらない
 - 12) 利益優先の社会はいらない——闘おう！ 未来のために
 - 13) さし迫る壊憲の危機——知らなかったではすまされません
 - 14) すでに始まっている戦争への道——私たちの戦争案内Ⅱ

◀2017年度前期募集要項▶

- 定員 本科生40名(5月1日(月)より募集)
- 全講座29回(各週1～2回程度)
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季寄宿(前期)や、懇親会などの企画があります。
- ◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)
受講料…前期：3万円、後期：3万円
・前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・2017年度前期の聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
- 申込方法
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。